

基本計画第1次案（「市民生活とコミュニティ」、「市民生活の安全」、「文化」）に対する 市政に関係する団体からの意見

■ 市民生活とコミュニティ

第1次案と同趣旨の意見

- 「地域コミュニティ活性化戦略」が重要。地域の人が一つになって考えていかなければならない時期にきている（子育て中の母親が孤立している等）。色々学んできた私たち世代が積極的に人とのつながり、関わりをつくっていききたい。
- 単身世帯の増加がコミュニティの必要性につながると考えるので、現状に加えてほしい。
- 10年後の姿に、市民が地域の問題に関心を持ち、コミュニティに参加することや、学校を中心としたコミュニティを生かすことを加えると、具体的な姿になると思った。

第1次案に反映した意見

- 分野別方針4「市民生活とコミュニティ」と分野別方針15「地域福祉」の2つの方針の内容には重複するところが多くあることが気になった。市民と行政の役割分担と共汗の図も、同じものだと感じた。

第2次案に反映されている意見

- 市街地中央のスプロール化と空洞化に、従来の京都町衆とは異なる市民自治モデルを構築すべき。
- 市民の自己責任として地域自治能力の育成のための市民自治モデル特区の構想をすべき。
- 全体的に見て、分野別方針では、課題と10年後の姿とあるが、どう課題を解決し、その姿にするのか、具体性がないように思う。例えば、地域コミュニティに関わるようにする、地域コミュニティのリーダー・担い手は、学生や学校を中心とする若い世代（子育て世代）が引き受けるなどの具体的解決法が必要ではないか。このような解決の方法を示すことを、市民は求めているのではないかと思った。

実施計画作成や事業展開の検討に当たって今後参考とする意見

- コミュニティの活性化は簡単にはいかない。
- 建築物やすまいの安心安全について課題となっているのが、空き家の多さである。空き家の老朽化及び防犯上の問題に対処していくのにも、地域コミュニティの活性化は必要である。

■ 市民生活の安全

第1次案に反映した意見

- 「現状・課題」欄（P23）の文言修正をお願いしたい。「さらなる生活安全」→「さらなる安全・安心なまちづくりに向けた取組」

第2次案に反映されている意見

- 将来にわたって京都らしい品格と賑わいのある安全・安心な繁華街の状態を維持・向上させていくためには、京都市の主体的な取組により「まち」の新たな魅力を引き出し、犯罪や事故などの問題が生じにくい環境に変えていく必要がある。京都市基本構想では、第2章第1節3の「だれもが安心してくらせるまち」の項目説明で「交通事故や犯罪からも安全であるための基礎的な条件が満たされているまち、そして、高齢者や子ども、障害のある人が安全に暮らせるようなまちをつくっていく」と示されていることから、「安全・安心な繁華街の形成」を盛り込んで頂きたい。
- 犯罪被害者が受けた被害の回復・軽減を図り、犯罪被害者が再び平穏な生活を営むことができるように支援することは、犯罪被害等を未然に防ぐことと同様、社会に求められる大きな役割である。被害者支援については、「地域が支え合う、だれもが安心してくらせるまちをめざす」とのコンセプトにも合致し、今後の被害者支援条例制定に向けた取組も視野に入れ、被害者支援に関する項目を盛り込んで頂きたい。
- 「暴力団排除」による安心なまちづくり（特に、祇園・木屋町地区について）を加えて頂きたい。

■ 文化

第2次案に反映されている意見

- 「文化」について、ここに書かれているのは高尚な文化・芸術のみであるが、本来は、庶民の文化にも言及すべき。文化を支えているのは市民である。庶民の生活に文化が溶け込んでいる、それを支え、維持しているのは市民であるという表現が必要では。
- 歴史や伝統文化は地域によってそれぞれ特色がある。全市一様でなく地域に合った政策が必要。
- 博物館、美術館等を生かすための方向性が見えてこない。日本において、世界各国の美術品を扱った展覧会が数多く開催されているのに、京都を挙げて海外の展覧会を誘致するような機運も感じられない。また、近年、日本各地において、現代美術館が新たににつくられているのに、京都には現代美術を専門的に取り扱う美術館が存在しない。国とも連携し、次世代の文化の担い手となる芸術家の育成も含め、積極的かつ大胆な文化振興施策を盛り込んでほしい。
- 歴史・文化・伝統・習俗を活かすために、近代京都の先進性に学び、国際的モデルを発信すべき。